

# かねやま会だより



## 故郷に思いを馳せて <上>

阿部保吉

「ふるさとの訛りなつかし／停車場の人ごみの中に／それを聴きにゆく」▼岩手県出身の石川啄木が遠い故郷に思いを馳せ詠んだ詩である。また、「ふるさとの山に向かひて／言ふことなし／ふるさとの山はありがたきかな」この詩も広く知られている。啄木が故郷の岩手山を思い詠んだといわれている。▼故郷への思いは今も昔と変わらないと思うが、昨年創立80周年記念総会を終えた山形県人東京連合会(「山形県人会」)の原田太吉会長は、地元の楯岡に埋もれたくない高校卒業後は都内の大学に進学したという。大学卒業後は不動産会社を経営する傍ら豊島区議会議員を連続5期務めたが、生まれ育った楯岡への深い郷土愛から東京村山会の会長に就任、数年前からは山形県人会の会長も務めている。

▼さて、わがふるさと金山町も昔は本当に遠かった。上野駅から夜行列車で新庄へ、新庄からバスに揺られてようやく故郷へ到着する。途中、上台峠から見る薬師山・中ノ森・熊鷹森の山並みに胸を熱くしたのは私だけだったのだろうか。

先輩の丹武志さんによると、「1957年(昭和32年)ごろ初代会長になられた伊藤長助さんが、東京金山会を設立しようと金山出身者を個別に訪問され8名ほどで発起人会を立ち上げた」という。▼会員名簿の作成からはじまる金山会設立の作業は並大抵の苦勞ではなかったと思うが、故郷へ思いを寄せる先輩の皆さんと当時の岸英一金山町長のご尽力により1959年(昭和34)11月22日、渋谷公会堂で創立総会を開き東京金山会が誕生した。

▼創立総会以降の金山会は歴代役員のご努力により順調に推移していたが、1980年代後半から総会参加者が激減し会の存続さえも危ぶまれる時代があった。この危機を乗り越えるため献身的に尽力された方々を次号で紹介する。

(東京金山会顧問)

## 東京金山会 親睦会のお知らせ

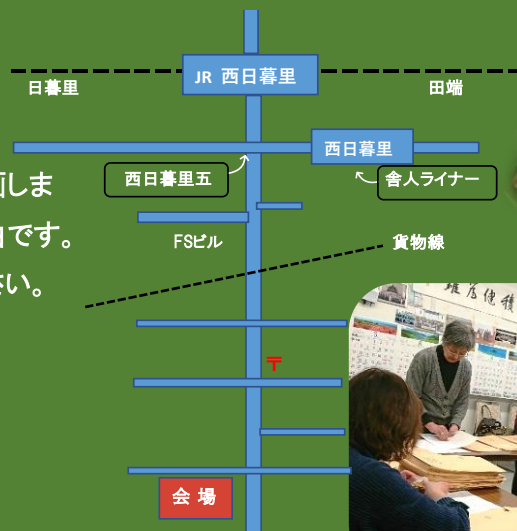
会員との交流の輪を広げるために、親睦会を計画しました。金山町にゆかりのあるどなたでもご参加自由です。親しい方をお誘いあわせのうえ、是非ご参加ください。幹事一同お待ちしております。

日時 2019年11月9日(土) 13時~16時

場所 東京金山会事務局

会費 お一人様 2000円

(★申し込み:幹事 藤山善夫 080-5525-0435)



(事務所風景)



## 編集後記

第61回総会は、記念総会の翌年にもかかわらず196名の方がご出席くださり大変盛り上がりしました。中には金山町から同級生が大勢でおいでくださった学年もあり、感謝の気持ちでいっぱいです。また、昨年から今年にかけて実行委員として若い世代の参加もあり、今後の活動の弾みになっています。会員同士の交流と、金山町の応援のためにこれからも努力してまいりますので、ご協力よろしくお願いたします。

## 東京金山会事務局



東京都荒川区西日暮里1-43-6

マ・メゾン1階 和みサロン内

TEL 03-3801-2877

FAX 03-6806-6277

## 東京金山会ホームページ・アクセス

ホーム／四季奏でるまち。→

町長の部屋→東京金山会



(旧中田小学校)